

# 公 民 [ 倫 理 ] (100 点 50 分)

2023 年 6 月 6 日 (火) 1 限 実施

第 1 回 考 査

千葉県立佐倉高等学校 第 3 学年 A～G 組

Edited by K.Kataoka

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。  
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

# 倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第1問 高校生 A と B が交わした次の会話を読み、後の問いに答えよ。(配点 16)

A : ギリシャ神話についてのレポートについて相談したいのだけど、どんな文献を読んだらいいのかな? (a) 神話的世界観について説明するために読んだ方がいいのはどんな本だと思う?

B : それは、やっぱり (b) ホメロスとヘシオドスの原典じゃないかな。もちろん、僕たちは古代ギリシャ語を読めるわけじゃないから、日本語訳だね。故事成語になっている (c) 「パンドラの箱」という言葉については、ヘシオドスの『仕事と日々』を読めばその由来がわかるよ。

A : 確かに原典読めば間違い無いけど、個別の物語だとギリシャ神話の全体像を知ることではできないから困っているのだよ。新書でギリシャ神話をまとめているものはないかな?

B : 岩波新書の『ギリシア神話』なら確かにギリシャ神話の全体像を、あらすじで知ることができるね。神々のプロフィールや (d) 英雄伝説についてもまとめてあるよ。

A : 倫理の授業ではゼウスが (e) オリュンポスの最高神だと教わったけど、どのような経緯でゼウスが最高神になったのかについても調べられるかな。

B : それなら百科事典で「ゼウス」の項目を引くのが早いかな。インターネットだと、「コトバンク」というサイトが、百科事典の項目を検索させてくれるよ。

A : なるほど、早速スマホで検索してみようかな。

問1 下線部(a)に関して、次の X~Z のうち神話的世界観にもとづく記述として最も適当な組み合わせを、下の①~⑦のうちから一つ選べ。[1]

X 事件は、すべて神が背後にあって糸をひき、その意向によって進行する。戦いの勝敗も英雄の死や負傷も、また航海の成否も最後には神の予定や裁決によって定められる。

Y 神的で不滅なアペイロンから、まず性質の対立するものが分かれ、そして、争い合うこの対立するものから星辰や生物が生じるが、やがて死滅し、アペイロンへ戻る。

Z ごく身近の不思議な事柄に驚異の念を抱き、それからしだいに少しずつ進んで遙かに大きな事象についても疑念を抱くようになる。たとえば、月の受ける諸相だの太陽や星の諸態だのについて、あるいはまた全宇宙の生成について。

① XYZ    ② YZ    ③ XZ    ④ XY    ⑤ X    ⑥ Y    ⑦ Z

問2 下線部(b)に関して、次のホメロスの作品についての記述を読み、文中の空欄[2]~[5]に入る語として最も適当なものを、次の①~④のうちからそれぞれ一つ選べ。

作品 [ 2 ] の中心主題は冒頭に歌われているように「 [ 3 ] の怒り」である。総帥アガ멤ノンが妾としている捕虜の女クリセイスは、アポロンの神官の娘であるが、その返還を拒んだことからアポロンの怒りを招き、疫病が蔓延する。その対策をめぐってアガ멤ノンと

[ 3 ] との間に争いが起こり、[ 3 ] は侮辱を被ったのを怒り、戦場にたつのを拒む。  
[ 3 ] の母なる海のニンフ、テティスはゼウスにすがってわが子の名誉回復を嘆願し、ゼウスは [ 3 ] 再起の花道を設けるために、戦局をギリシア軍に不利になるように計らう。アガ멤ノンも我を折って和解を申し入れるが、アキレウスはそれを拒む。戦況は破局的になり、[ 3 ] の親友 [ 4 ] は見かねて、[ 3 ] の武具を借りて勇戦するが、トロヤ方の総帥 [ 5 ] に討たれる。ここにおいて [ 3 ] も親友の仇を報ずるために決起し、[ 5 ] を一騎打ちで倒す。[ 3 ] の怒りはなおも収まらず、[ 5 ] の死骸を辱め続けるが、神々のとりなしにより、トロヤの老王プリアモスが、夜陰に [ 3 ] の陣営を訪れ、息子の遺体を収容して城へ帰り、葬儀を営むところで全編が終わる

[2] ① イリアス ② 神統記 ③ オデュッセイア ④ トロイヤ

[3] ① ヘクトル ② パリス ③ パトロクロス ④ アキレウス

[4] ① ヘクトル ② パリス ③ パトロクロス ④ アキレウス

[5] ① ヘクトル ② パリス ③ パトロクロス ④ アキレウス

問3 下線部(c)に関して、「パンドラの箱」の一般的な意味として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[6]

- ① 呪いの箱を面白半分に取り扱うべきではないということのたとえ。
- ② 多種多様なものがいかにも賑やかな調子で散らばっているさまのたとえ。
- ③ 最後に残された希望を待ち望む期待についてのたとえ。
- ④ さまざまな災いを引き起こす原因となるもののたとえ。

問4 下線部(d)に関して、次のプロフィールが示す英雄として最も適当な人名を、下の①～④のうちから一つ選べ。[7]

イオニア海の小島イタケで、王ラエルテスとアンティクレイアの間に生まれた。彼は成人してイタケの王となったとき、美女ヘレネに求婚したが、彼女はメネラオスを選んだために、イカリオスの娘ペネロペイアを妻とし、2人の間に息子テレマコスをもうけた。のちにヘレネがトロヤ人パリスにさらわれたとき、彼は狂気を装ってヘレネを取り戻す援助を拒んだ。しかし結局その偽りは見破られて、トロヤ遠征に参加した。トロヤ戦争終了後、彼は海神ポセイドンの怒りに触れて長く海上をさまよったが、ついにイタケに帰って妻ペネロペイアへの求婚者たちを滅ぼし、またポセイドンをなだめるために神殿を建てた。そののち、魔女キルケとの間に生まれた息子テレゴノスが父に会うためイタケにきたとき、彼はそれと知らずに戦い、息子に殺された。

① ヘルメス ② オデュッセウス ③ アキレウス ④ ヘラクレス

問5 下線部(e)に関して、次のア～ウが示すギリシャの神の組み合わせとして最も適切なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。[8]

**ア** はアトラスの長女マイアを母とし、ゼウスの末子として生まれた。彼には生まれつき人を騙す不思議な能力があり、生まれたその日のうちに兄の**ウ**の牛の群れを盗んだ。彼は美しい青年で、鍔の広い旅行帽をかぶり手には伝令使の杖（ケーリュケイオン）を持ち、有翼のサンダルを履いた姿であらわされる。

**イ** は自然の生産力の表象、豊穡神であり、葡萄の栽培とともに主として酒の神となり、エクスタシーを伴う彼の狂乱の祭りは神秘宗教で地下の冥界とつながりをもつにいたった。

**イ** はゼウスとテーバイの王女セメレーの子とされているが、ゼウスの妻ヘラは嫉妬によって**イ**を亡き者にしようとしたが、**ア**が彼を助け、少女として育てられるようにしてヘラの目を欺いたという。

**ウ** はゼウスと柔和な女神レートーの子。レートーの出産の際に、ヘラは嫉妬から全世界に子供を産む場所を提供することを禁じたが、デーロス島が出産場所を提供した。**ウ**は生まれ落ちるとすぐに白鳥に運ばれて北方に赴くが、やがてデルフォイに来て、ガイアから生まれた大蛇を退治し、その地で予言を与える神となった。

- |   |          |         |          |         |          |         |
|---|----------|---------|----------|---------|----------|---------|
| ① | <b>ア</b> | ディオニュソス | <b>イ</b> | ヘルメス    | <b>ウ</b> | アポロン    |
| ② | <b>ア</b> | ディオニュソス | <b>イ</b> | アポロン    | <b>ウ</b> | ヘルメス    |
| ③ | <b>ア</b> | ヘルメス    | <b>イ</b> | ディオニュソス | <b>ウ</b> | アポロン    |
| ④ | <b>ア</b> | ヘルメス    | <b>イ</b> | アポロン    | <b>ウ</b> | ディオニュソス |
| ⑤ | <b>ア</b> | アポロン    | <b>イ</b> | ヘルメス    | <b>ウ</b> | ディオニュソス |
| ⑥ | <b>ア</b> | アポロン    | <b>イ</b> | ディオニュソス | <b>ウ</b> | ヘルメス    |

第2問 次の文章を読み、下の問いに答えよ。(配点 24)

紀元前6世紀の初頭に、当時の先進的な地域であった小アジア・[ 9 ] 地方に新たな考え方をする人々があらわれ、哲学がはじめられるようになった。初期の哲学者たちは、とくに自然を考察した。彼らは(a) 神話的世界観を排して、自然の世界は神々の恣意的な働きに左右されるものではなく、それ自体で確固とした秩序をそなえた存在であり、また、その秩序は人間の観察と思考によってとらえられ、さらに、秩序の根拠も人間の[ 10 ] の働きによって自然そのもののうちに把握されうると考えた。ゆるぎない秩序をもつととらえられた自然の世界全体は、やがて[ 11 ] とよばれるようになった。

最初の哲学者タレスは、(b) 水を万物の根源と考へ、水によって世界のなりたちとその諸現象を説明しようとした。その後ピュタゴラスは、世界の秩序の根拠を数に求め、世界には自然数の比にもとづく[ 12 ] があると考えた。ヘラクレイトスは、万物の原理を永遠の火とし、世界の秩序を[ 13 ] 的にとらえた。

問1 文章中の空欄[ 9 ]～[ 13 ]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [9]      [ ① フリギア                      ② イオニア  
            [ ③ エレア                         ④ エオリア

- [10]      [ ① パトス                         ② ロゴス  
            [ ③ ソフィア                        ④ ミュトス

- [11]      [ ① ノモス                         ② カオス  
            [ ③ コスモス                        ④ モイラ

- [12]      [ ① ミメーシス                      ② カタルシス  
            [ ③ アガペー                        ④ ハルモニア

- [13]      [ ① 動                                ② 静  
            [ ③ 霊                                ④ 美

問2 下線部(a)に関して、次の文中の[14]に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。(2002年本試)

古来、偉大な哲学者や宗教家は、伝統的権威や既存の価値観などと対決しつつ、自らの思想を生み出してきた。古代ギリシャの思想家であるクセノパネスは、「死すべき人間どもは、神々が自分たちと同じような装いや声や姿をもって生まれ出たものと思っている」と述べ、ギリシャ神話における[ 14 ]を批判している。ギリシャの哲学者たちは、当時の社会において支配的であった神話を批判することから出発して、神についても理性的な探究を行ったのである。

- ① アニミズム的な神観念                      ② 一神教的な神観念  
③ 理性主義的な神観念                        ④ 擬人的な神観念

問2 下線部(b)に関して、タレスに関する次の文中の空欄 [15] に入る語として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

タレスがアリストテレス的術語「アルケー」を用いることはなかったにしても、彼が多様な自然万有をまさにそのようなものとして展開させる、その元のものを探求し、旺盛な知的探究心のもたらす経験的事実にもとづいて、元のことを「水」としたことは、私たちも理解することができるだろう。タレスの言葉とされる「大地は水の上に横たわる」はおそらく「水」を元のものとする、彼の [ 15 ] の中によく適合するものであったと考えられる。自然万有は水から生成するだけでなく、また水へと還る。かくて水は永遠つまり神的なものでもある。私たちはここで、日蝕や大地の存在形態など個別な事象に関わる合理的思考、合理的説明を超えた地平を冒険することになる。すなわち宇宙万有を全体としてその視野のうちに置き入れ、統一的に説明し理解しようとする思考方式に出会うことになったのである。

- ① 多元宇宙論    ② 宇宙開闢説    ③ 定常宇宙論    ④ 宇宙生成説

問3 次の文中の空欄 [16] ～ [18] に入る語として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

[ 16 ] 学派は、前6世紀の後半南イタリアの [ 16 ] に起った哲学の一派。クセノファネス、[ 17 ]、ゼノン、メリッソスらが代表者。その学説は存在のあらゆる有限な規定性、変化を否定し、無規定的で変転しない純粋な存在のみを認める [ 18 ] 論である。創始者クセノファネスは神を一者と呼んで多神教を攻撃し、この派を体系化した [ 17 ] は、純粋な唯一の存在という概念を多様性の概念に鋭く対立させ、それに向う純粋な思考を唯一の確実な認識とした。ゼノンはこの一者の概念を最も純粋に抽象し、一と多の対立を明確にした。彼はその学説を鋭い論理により擁護しており、アリストテレスによって弁証法の創始者といわれている。

- [16] ① コリントス    ② ミレトス    ③ ポロス    ④ エレア

- [17] ① パルメニデス    ② アナクシマンドロス    ③ アナクシメネス    ④ アナクサゴラス

- [18] ① 多元    ② 一元    ③ 二元    ④ 生成

問4 次のピュタゴラス派についての記述中の空欄 [19] [20] に入る語として、最も適切なものを、下の①～④のうちから一つずつ選べ。

1 は最初の自然数あるいは単位数であるだけでなく、全体、究極、完全を意味した。同様に 2 は 2 個の単位数ではなく、対立、[ 19 ]、闘争、無限を、3 は調和、秩序、神性を、4 は事物、配分、正義などを意味する。数は量ではなく、存在の元型的形相だったのである。このことを象徴的に表しているのが「四元数(テトラクテュス)」である。この 1, 2, 3, 4 から成る 10 個の点は、大宇宙と小宇宙に共通する [ 20 ] をあらわし、ピタゴラス教団ではこの図形の前で誓いを立てたと伝えられている。

- [19] ① 終了    ② 鼎立    ③ 単独    ④ 分裂

- [20] ① 基本体型    ② 世界秩序    ③ 共通項    ④ 原始質料

第3問 次の文章を読み、下の問いに答えよ。(配点 10)

古代ギリシア社会におけるソフィストたちの活躍は、現代の日本社会を何らか照らし出すように思われる。今日の日本社会の問題点を概観しておくことは、ソフィスト考察が念頭におくべき論点を見定める上で役に立つはずである。

第一に絶対的な[ 21 ]や世界観が崩壊し、その反動から自由や個性の名の下に相対主義に流される問題状況はソフィストが活躍した古代ギリシアと現代日本に共通する。第二次世界大戦の敗戦によってそれまでの絶対的な体制「大日本帝国」が滅亡し、「天皇制」が根本的に形を変えた。東欧共産諸国やソビエト連邦が崩壊し、「共産主義」が幻影となると、保守的な資本主義が、思想性のないままに社会を支配する。こういった反[ 22 ]的な状況は、生の拠り所や方向を見失わせている。

第二に現代の相対主義は、「[ 21 ]観は人それぞれで異なる」といった耳障りの良い標語を口にする。[ 22 ]や発達史観への反動から、社会学や歴史学、さらには自然科学(論)でも相対主義的な見方が蔓延している。歴史とは後世がでっち上げる物語であり、化学も時代ごとの[ 23 ]に過ぎない、と相対主義が昂然と唱われる。相対主義的主張は、若者たちに、ひどくシラケたものの見方を提供している。個人を自由へと開放するように見えながらも、結局は「国家、社会、大学」といった体制の中で身動きできない状況を作り出している。しかもそれが根拠のないものであると自己に言い訳しながら、それに従って生きざるを得ないという[ 24 ]に人々を置いている。

さらに、「[ 25 ]や法は、各社会や国家が決めたものに過ぎない」という社会相対主義が、実際には現実の力、例えば超大国による小国への侵略や、政府軍による非力な住民の抑圧を「[ 25 ]」と呼ぶような現状を容認し、暴力への諦め、権力・宗教への盲従を引き起こす。

最後に、「個性的な生き方、自分らしい生き方、独自の[ 21 ]観」を求めるという現代の社会幻想が、若者にプレッシャーを与えながら、結局は画一的なファッション、落語と無力感を生む状況を指摘しよう。事故が暗黙のうちにしたがつている[ 21 ]観を相対化できずに、「自己」を甘く絶対化する傾向が現代相対主義の一つの帰結である。

(納富信留『ソフィストとは誰か?』)

問1 文章中の空欄[ 21 ]～[ 25 ]に入る最も適切な語句を、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

[21] ① 人生 ② 道徳 ③ 価値 ④ 無常

[22] ①フェミニズム ②イデオロギー ③ファシズム ④ シミュラークル

[23] ①サステナビリティ ②パラダイム ③エクリチュール ④セーフティネット

[24] ①ダブル・バインド ②アレゴリー ③エピステーメー ④パラドックス

[25] ① 慣習 ② 常識 ③ 現実 ④ 正義

第4問 次の文章を読み、下の問いに答えよ。(配点 10)

プロタゴラスが職業として自認した「[ 26 ]の教育」は、若者を一日一日より優れた人間にすることであり、家政や公共の事柄について言論も行動も有能になる「よき思案」の授与である。「[ 26 ]」とは人間の優秀さ・卓越性であり、それは出自や本性で決まっているものではなく、社会において教育で培われ発揮されると唱えた。

プロタゴラスからの引用のうち『真理』冒頭では有名な「人間尺度説」が提示されていた。

人間は万物の尺度(メτρον)である。あるものには、あることの。ないものには、ないことの。

印象的な言い回しで大きなインパクトを与える一文には多くの工夫が凝らされている。まず「人間は」で始まる冒頭部は、これまで[ 27 ]が全てを司ると信じてきたギリシャ人に大きな衝撃を与えた。「あるものは、ある。ないものは、ない」という表現は[ 28 ]の原理「あるは、ある。ないは、ない」をもじっている。プロタゴラスはその主張をそのまま用いて「真理」とすることで、人間が「ある、ない」を混同して思い込みに陥っているという[ 28 ]の人間批判を退ける。

ゴルギアスが比較的若い時期に執筆したと伝えられる論考の議論は三段階の証明からなっていた。「まず一つ最初に、[ 29 ]。第二に、もしあるとしても、人間には把握できない。第三に、もし把握できたとしても、語り得ず、隣の人にも伝えられない」。この三段階は、哲学の証明としてその論法が醸し出す違和感がいっそう甚だしい。もし「[ 29 ]」という第一証明が完結していれば、「もしあるとしても」という第二議論以下の議論は不要であり、反実仮想になるからである。では、なぜ不毛ともいえる否定を重ねていくのか。

彼が[ 28 ]の「ある」の哲学とメリッソスらの議論を用い、ゼノンの一元論やレウキッポスらの多元論を相互に突き合わせながら全てを退けていることは、彼自身がそれらとは異なる立場、例えば「無の哲学、ニヒリズム」と呼ぶべき思想を提起していると解釈されることもある。だが、ゴルギアスが行っていることは哲学の真面目さをもじることでそこに含まれる矛盾や逆説を露呈させる言論パフォーマンスであり、その意図は[ 30 ]にあったと考えられる。ゴルギアスは哲学者たちが真面目に問い答えようとするその問いを突き詰めることで、それ自体が崩壊しかねない言論の力を示した。ゴルギアスの弁論術はそのような破壊力によって、プラトンが哲学を打ち立てるにあたって巨大な標的となったのである。

問1 文章中の空欄[ 26 ]～[ 30 ]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの

①～④のうちから一つずつ選べ。

[26] ① ロゴス ② アレテー ③ アルケー ④ ソフィア

[27] ① 神 ② 自然 ③ 秩序 ④ 理法

[28] ①パルメニデス ②デモクリトス ③エンペドクレス ④ピタゴラス

[29] ①すべてある ②何もない ③一部ない ④あるはある

[30] 

{	① レトリックによる哲学の賛美
	② アイロニーによる哲学への応援
	③ パロディーによる哲学への挑戦
	④ ディアレクティケによる哲学の否定



**第5問** 次の文章を読み、下の問いに答えよ。(配点 12)

ソクラテスはソフィストとは異なり、人々に何かを教えるのではなく、アテネの街角で会う人たちと [ 31 ] を交わすことで、哲学を遂行した。ソクラテスはあるとき、「ソクラテスより知恵ある者はいない」というデルフォイのアポロン神託を受けた。自身では善や美や正義など大切なことは知らないと思っていたソクラテスは、神託を [ 32 ] として受けとめ、世間で知者と見なされる人々と [ 31 ] をはじめた。そして、彼らもやはり大切なことを知らない(不知)にもかかわらず、専門的な知恵への自負ゆえに「知っている」と思いこんで無知の状態にあることに気づき、知らないことを率直に認める不知の自覚を促した。

ソクラテスは [ 31 ] で、まず相手に、あることがらについて彼らがどう思うかを語らせて、それらの考えに矛盾があることを指摘する。当初自分は「知っている」と思っていた相手はこたえられず、**A** におちいると、はじめの [ 33 ] がとりのぞかれ、真理の探究へと導かれる。それが不知の自覚である。こうして [ 31 ] を通じて生を吟味する方法が、ソクラテスの [ 34 ] であった。ソクラテスが人々に促したのは、「ただ生きるのではなく、善く生きることが大切である」という基本の確認である。私たちは通常、富や健康や名誉といった価値を求めて生きているが、本当に大切なのは評判や持ち物や肉体ではなく、「[ 35 ]」とよばれる自分自身であり、その善きあり方である。ソクラテスが徳や幸福など倫理的なことからを主題に、それを人々と一緒に徹底的に考えたのは、人々に [ 35 ] をできるだけ善くするように配慮せよと促し、ともに哲学をおこなうためであった。

**問1** 文章中の空欄 [ 31 ] ~ [ 35 ] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの

①~④のうちから一つずつ選べ。

[31] ① ディアログス ② ミソログス ③ モノログス ④ ピロログス

[32] ① 物語 ② 謎 ③ 虚構 ④ 警告

[33] ① パラドックス ② エピステーメー ③ エイロネイア ④ ドクサ

[34] ① ログス ② レトリケー ③ パトス ④ ディアレクティケー

[35] ① プシュケー ② セーマ ③ アレテー ④ カロカガティア

**問2** 文中の **A** について、その語を説明する記述として最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。[36]

- ① この語のギリシア原語「思われる」から由来し、一般に意見、決定を意味した。これはのちに、とくに哲学者の見解、したがって哲学説を意味するものとなる。
- ② 単語または文章において、表面の意味とは逆の意味が裏にこめられている用法。多くは嘲笑や軽蔑を表わす。
- ③ ギリシア語で場所に関しては通路のないこと、事物については解決の方途が見出せないことから生じる困難を意味する。
- ④ 低次の認識を意味する語。真の知識に対して、当人にそう思われているにすぎないこと。ものごとのありようを正確に見分け、識別して、支配する域には達していない。

第6問 次の文章を読み下の問いに答えよ。(配点 14)

アイデアの探究は、私たちが見聞きし感覚して生きるこの世界を、批判的に反省することからはじまる。ある一つの行為が、私には「正しい」と思えても、別の人には「正しくない」と思えたり、あとで違って見えたりすることもある。このように、この世界ではあらゆるものごとが、ときや場所によって、また個人の観点によって「正しい」とも「正しくない」ともあらわれている。私たちはそうした [ 37 ] に出会い、考えを変える中で、正しさとは何か、わからなくなってしまう。だからといって、真理など人間にはしよせんわからないと諦めたり、各人にそう思われればそれが真理だと開きなおったりしては、善い生き方を求める道が閉ざされてしまう。

プラトンはそういった立場を断固しりぞけて、こう促す。目を閉じて、感覚されるこの世界から一旦身を離して、ことがらはどうなっているか [ 38 ] において徹底的に考えてみよう、と。「正しい」と思われた具体的な行為や考えが「正しくない」とされることはあっても、正しさそれ自体が「正しくない」とあらわれることはあり得ない。もし正と不正が一緒になってしまったら、私たちはそれらの [ 38 ] を使ってものごとをとらえて生きることが、根本的に不可能になってしまうからである。むしろ、けっして不正とならない正しさそれ自体があることを確信し、それが永遠不変で絶対的であり、感覚されるこの [ 39 ] の世界を超えて [ 40 ] すると認める。すると、いままで「現実」だと思っていた混沌とした世界が、真の現実から見るとその影にすぎないものとしてあらわれてくる。

私たちが生きるこの世界は、真の [ 40 ] であるアイデアを根拠として成立している。そのアイデアを探究してそれを知ること、はじめて、私たちはこの世界のものごとを精確に見極めながら、より善く生きることが可能となる。いままで、これがすべてだと思いこんでいた現実が、別の次元からとらえなおされる。プラトンは、 [ 41 ] 的なアイデアの次元で「理想」を立てて、それを目指すことで、私たちがより善く生きることができると考えたのである。

問1 文章中の空欄 [ 37 ] ~ [ 41 ] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

[37] ①類似する構造 ②相反するあらわれ ③共通する様相 ④対立する悪意

[38] ① 言葉 ② 図形 ③ 印象 ④ 視覚

[39] ① 現象 ② 状況 ③ 表象 ④ 実体

[40] ① 了解 ② 表象 ③ 実在 ④ 内在

[41] ① 包含 ② 潜在 ③ 革新 ④ 超越

**問2** プラトンは、洞窟の比喩を用いて彼の思想を説いた。その比喩の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[42] (2006年本試験)

- ① 多くの人々は、魂が肉体から解放されるまで、快楽や欲望の束縛から脱することができない。それはちょうど、囚人が洞窟の中に死ぬまで縛りつけられて逃げられないのと似ている。
- ② 多くの人々は、個人的な生活にしか目を向けず、社会的理想を追求しようとはしない。それはちょうど、洞窟の中で生活している人々が、そこでの生活に安住し、洞窟の外に出て理想国家を建設しようとはしないのと似ている。
- ③ 多くの人々は、普遍的な真理など存在せず、相対的にしか真理は語れないとする。それはちょうど、人々がそれぞれの洞窟の中でそれぞれの基準で真偽を判断し、その正否に他人は口を出せないのと似ている。
- ④ 多くの人々は、感覚されたものを実在だと思い込んでいる。それはちょうど、洞窟の壁に向かって繋がれている囚人が、壁に映った背後の事物の影を実物だと思い込んでしまうのと似ている。

**問3** 次の文章は、プラトンの著作中の人物が、哲学的対話における言葉の価値を、書かれた言葉と対比しつつ述べたものである。この文章の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[43] (2015年本試験)

書かれた言葉は、あたかも実際に何事かを考えているかのようにみえる。だが、もし君が、そこで言われている事柄について質問すると、いつでも一つの同じ合図をするだけである。それに、どんな言葉でも、ひとたび書き物にされると、それを理解する人のところであろうと、まったく不適当な人々のところであろうと、転々とめぐり歩く。そして、誤って扱われたり、不当に罵られたりしたときは、書いた本人の助けを必要とする。……これに対し、人が対話の技術を用いながら、ふさわしい相手の魂のなかに、知識とともに植え付ける言葉は、自分自身のみならず、植え付けた人をも助ける力をもつ言葉であり、また、実を結ばぬままに枯れることなく、一つの種を含んでいて、その種からは、また新たな言葉が新たな心のなかに生まれ、かくて、常にその命を不滅に保つことができるのだ。そして、このような言葉を身に付けた人は、人間に可能な限りの最大の幸福を、この言葉の力により勝ちとるのである。(『パイドロス』より)

- ① 書かれた言葉は、多様な読者に対して十分に筆者の考えを伝えることができないが、対話において適切な仕方では語られる言葉は、どのような対話者の魂をも育て、自ら考えることへと導いていく。
- ② 書かれた言葉は、内容を理解できない読者に読まれると、言葉本来の力が活かされずに終わる可能性があるが、対話を通じて育まれる言葉は思考する力となり、それを語る人々を支えるとともに、さらなる対話を導く。
- ③ 書かれた言葉は、文字として明確に表されているので、筆者の考えを正しく伝えるが、対話において語られる言葉は、対話の相手によって変化するので、話者の考えを正確に伝えることはできない。
- ④ 書かれた言葉は、まったく変化しないため、時とともに説得力を失うが、生きた人間同士がかかわる対話においては、それぞれの時代の価値観に即した内容が語られるので、説得力ある言葉が常に生み出されていく。

第7問 次の文章を読み下の問いに答えよ。(配点 14)

アリストテレスは、動物など生きものの観察を通じて、この世界を自然物の総体としてとらえる総合的な哲学をうち立てた。私たちが生きる自然界は、運動・変化する事物から成り立っているが、その中でみずからを動かす原理として自然(ピュシス)を内にもつものが自然物である。その自然の原理と原因を探究すれば、この世界の構造が明らかになるはずだというものである。道端で動いている小さな虫を観察すると、その身体の各部分が精巧につくられ、生きるという〔44〕にかなって活動していることに驚くことだろう。アリストテレスは「自然は何も無駄なことはしない」と語り、個々の実体に、自然が完全な形で実現され、まさにそこに現実があるとして、そのあり方を考察した。蝶には蝶のかたちがあるように、アリストテレスは生きものの種に固有の機能と活動をつかさどるものを〔45〕とよんだ。餌として摂取されたさまざまな物質は、〔45〕によって有機的な身体へと秩序づけられる。蝶の身体は、〔45〕がそこに実現する〔46〕である。また、親の蝶は、子にその同じ〔45〕を与える始動の原因となり、蝶の種を実現するという〔44〕をとげる。このように、自然は〔45〕、〔46〕、始動、〔44〕の四原因から理解され、その中で〔45〕こそが、事物に内在してそのもののあり方を形づくる本質であった。生きものにとっては、生命の原理である魂が〔45〕である。

感覚世界を超越したアイデアに真の現実を求めたプラトンの理想主義に対して、アリストテレスは目の前でとらえられる個々の実体を基礎におく現実主義をとった。実体のあり方は、さらにこう説明される。蝶は、卵やイモムシやサナギのときに、すでに蝶という成体への可能性を内にもっている。蝶がそれら〔47〕から成長して、完全な蝶として活動するとき、そうして生きること自体が蝶のあり方の現実となる。存在がその本質を完全に実現し、十全に活動するあり方、それが〔48〕である。この蝶、この人間が生きることが、宇宙の全体をつらぬく現実である。自然物のすべてを動かし変化させる原理をさかのぼると、みずからは動かずに万物を動かす神(不動の動者)にいたる。その究極者を中心に考えられた〔44〕論的自然観が、アリストテレスから中世のキリスト教神学にとり入れられて、近代科学が成立するまでヨーロッパの中心的な自然観となった。

問1 文章中の空欄〔44〕～〔47〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの

①～④のうちから一つずつ選べ。

[44] ① 手段 ② 終末 ③ 目的 ④ 機械

[45] ① エイドス ② デュナミス ③ エネルゲイア ④ ヒュレー

[46] ① エイドス ② デュナミス ③ エネルゲイア ④ ヒュレー

[47] ① エイドス ② デュナミス ③ エネルゲイア ④ ヒュレー

[48] ① エイドス ② デュナミス ③ エネルゲイア ④ ヒュレー

問2 徳に関するアリストテレスの思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[49] (2016年本試験)

- ① 中庸とは、各々の状況下で極端を避けて適切に行動し得る状態のことである。そうした行動を習慣づけたならば、徳をもたなくても、常に正しく行動することができる。
- ② 部分的正義は、人々の間に公正をもたらす徳であり、弱者や困窮者に富や機会を配分する配分的正義と、取引や訴訟において当事者の利害得失を均等に保つ調整的正義とに分けられる。
- ③ 人間の魂には理性、気概、欲望の三部分がある。理性の主導のもと、三部分が固有の本分を果たすことによって知恵、勇気、節制が実現し、これら三つの部分の調和により正義の徳が実現する。
- ④ 理性の最高の徳は知恵である。この知恵の徳に基づいて、日常的な利害への関心を離れ、理性を純粹にはたらかせる観想(テオリア)の生にこそ、人間にとって究極の幸福がある。

問3 問3 『ニコマコス倫理学』において人間固有の働きの中でも最高の働きと評価される「テオリア」についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[50] (2004年本試験)

- ① テオリアとは、原理を直観的に把握する理性の働きである。
- ② テオリアとは、主に制作活動にかかわる理性の働きである。
- ③ テオリアとは、厳密な論証・推論としての理性の働きである。
- ④ テオリアとは、主に行為・実践を導く理性の働きである。

問題は以上です。